

大恩教主を高祖承陽勃陀地といひます。その實は、三たびくりかへして釋迦牟尼勃陀地の實號をと
なふるのであります。釋迦牟尼勃陀地を拈すれば、菩提達磨勃陀地と、高祖承陽勃陀地とは、釋
迦牟尼勃陀地にかくれてしまふ。釋迦牟尼勃陀地のほかに、各各の勃陀地がないからであります。
菩提達磨勃陀地を拈すれば、釋迦牟尼勃陀地と、高祖承陽勃陀地とは、菩提達磨勃陀地にか
くれてしまふ。菩提達磨勃陀地のほかに、各各の勃陀地がないからであります。

高祖承陽勃陀地を拈すれば、釋迦牟尼勃陀地と、菩提達磨勃陀地とは、高祖承陽勃陀地にか
くれてしまふ。高祖承陽勃陀地のほかに、各各の勃陀地がないのであります。

さりとて、釋迦牟尼勃陀地と菩提達磨勃陀地との壽命が、いまに連綿として高祖承陽勃陀地に
つらなれりといふのではありません。高祖承陽勃陀地の壽命が、とほく過去に布遍して菩提達磨勃
陀地および、釋迦牟尼勃陀地にならべりといふのではありません。高祖承陽勃陀地の五百生は、釋
迦牟尼勃陀地の娑婆往來八千遍でありますし、高祖承陽勃陀地が、悲母の喪に無常を感じて出家な
されたは、釋迦牟尼勃陀地の四門出遊に無常を感じて出家なされたのでありますし、高祖承陽勃陀
地の叡山勤學と、建仁安居とは、釋迦牟尼勃陀地の外道修行でありますし、高祖承陽勃陀地の脱落
脱落は釋迦牟尼勃陀地の一見明星でありますし、高祖承陽勃陀地の如淨勃陀地に面授面せしは、
釋迦牟尼勃陀地の迦葉勃陀地に面授面せられたのでありますし、高祖承陽勃陀地の御歸朝は、

釋迦牟尼勃陀地の出山でありますし、高祖承陽勃陀地の入闡垂手は、釋迦牟尼勃陀地の六道輪廻
でありますし、高祖承陽勃陀地の、いかにして一切衆生をして菩提心をおこさしめ、佛道に引導せま
しと、ひまなく三業にいとむなりといふは、釋迦牟尼勃陀地の「每自作是念、以何令衆生、得入
無上道、速成就佛身」でありますし、高祖承陽勃陀地の、建長元年九月十日上堂して、盡未來際不離
吉祥山の御誓約ありましたのは、釋迦牟尼勃陀地の壽量品であります。

高祖承陽勃陀地なにか、釋迦牟尼勃陀地ならん、釋迦牟尼勃陀地あらん。釋迦牟尼勃陀
地、これ釋迦牟尼勃陀地なれば、高祖承陽勃陀地すなはち高祖承陽勃陀地であります。

生死は佛家の調度であります。このゆゑに高祖承陽勃陀地は、五百生のあひだ使也用使して、ある
ときは大梅法常禪師となり、あるときは洞山悟本大師となり、辨道に生死し、三世にひまなき發心・修
行・菩提・涅槃の行持道環であります。

「まれに人間の身心を保任せり、古來の辨道力なり。」(佛道の卷)

「この人身は、先世に佛法を見聞せし種子よりうけたり。」(三十七品菩提分法の卷)

これによりてこれをみれば、大梅法常禪師の古來の辨道力が、正傳の三昧王三昧をわが日本に弘道せ
んがために、人間の身心を保任しましたのが、高祖承陽勃陀地で、釋迦牟尼勃陀地の眞訣を佛心印
せる大恩教主であります。洞山悟本大師の、先世に佛法を見聞せし非佛が、西來の祖道を傳東せんがた

めに、人身をうけられましたのが、高祖承陽勃陀勃地で、少林の正嫡まさしくわが日本の大恩教主であります。

「釋迦牟尼佛を禮拜したてまつり供養したてまつるといふは、傳法の本師を禮拜し供養するなり。」(陀羅尼の卷)

もしかのごとくなれば、傳法の本師如淨勃陀勃地が、釋迦牟尼勃陀勃地なるゆゑに、嗣法の弟子高祖承陽勃陀勃地も、また釋迦牟尼勃陀勃地でなければなりません。如淨勃陀勃地が釋迦牟尼勃陀勃地でありますから、よく高祖承陽勃陀勃地を釋迦牟尼勃陀勃地と印したのであります。高祖承陽勃陀勃地が釋迦牟尼勃陀勃地でありますから、淨祖釋迦牟尼勃陀勃地より、釋迦牟尼勃陀勃地といふ印證をえたのであります。如淨勃陀勃地が釋迦牟尼勃陀勃地でありますから、よく高祖承陽勃陀勃地を、最尊なる釋迦牟尼勃陀勃地なりと印可し、最上なる釋迦牟尼勃陀勃地なりと印可なされたのであります。

高祖承陽勃陀勃地が釋迦牟尼勃陀勃地でありますから、淨祖釋迦牟尼勃陀勃地の印證をえ、傳法の本師如淨勃陀勃地も、釋迦牟尼勃陀勃地であり、嗣法の弟子高祖承陽勃陀勃地も、釋迦牟尼勃陀勃地であり、釋迦牟尼勃陀勃地と釋迦牟尼勃陀勃地であります。勃陀勃地纏遶於勃陀勃地、勃陀勃地被勃陀勃地纏遶、勃陀勃地纏遶。

「釋迦牟尼佛面を禮拜するとき、五十一世ならびに七佛祖、ならべるにあらず、つらなれるにあざされ

ども、俱時の面授あり。」(面授の卷)

このゆゑに釋迦牟尼勃陀勃地、菩提達磨勃陀勃地、大梅法常禪師、洞山悟本大師等の壽命が、いまに連綿として高祖承陽勃陀勃地につらなれるにあらず、高祖承陽勃陀勃地の壽命がとほく過去に布遍して、洞山悟本大師、大梅法常禪師、菩提達磨勃陀勃地、釋迦牟尼勃陀勃地とならべるにあざれども、斷絶を超越し、無始無終を脱落して、一面一體の釋迦牟尼勃を現前したのであります。さらに成道作佛は菩薩の法儀でありますから、初發心にも成佛し、妙覺地にも作佛し、無量百千萬億度作佛した菩薩があります。一旦作佛したのちは、行を廢してさらに所作あるべからずといふは、いまだ佛道祖道をしらざる凡夫であります。

高祖承陽勃陀勃地は、七地以上の菩薩として、永平寺をも開闢なされましたが、さらに大誓願をおこされました。

「上堂、我本師釋迦牟尼佛大和尚先世作瓦師名曰大光明。爾時有佛名釋迦牟尼佛。彼佛世尊壽命名號國土弟子正法像法一如今佛。彼佛與弟子俱至瓦師舍宿。瓦師以草座燃燈石蜜漿施佛及比丘發誓願。當來五濁之世作佛及弟子壽命名號國土身量正法像法一切皆如今釋迦牟尼佛不異。如其昔願今日作佛國土弟子正法像法壽命名號一切皆如今釋迦牟尼佛。」

日本國越宇開闢永平寺沙門道元亦發誓願。當來五濁之世作佛及弟子國土名號。正法像法身量壽命一如今日本師釋迦牟尼佛不異。唯願佛法僧三寶天衆地衆雲衆水衆柱杖拂子證明此願。雖然如是今釋迦牟尼佛親曾在古釋迦牟尼佛國佛及弟子來宿自舍一與供養草座石蜜而發誓願今已成就其願。而今道元亦見今釋迦牟尼佛及佛弟子亦聞佛說法也無。釋迦牟尼佛言(法華涌出品文)始見我身聞我所說即皆信受入如來惠。既得如是聞佛所說即見佛身也。始見我身也。自能信受入如來惠也。況乎耳見佛身眼聞佛說乃至六處亦復如是。入佛家住入佛所入而發誓願一如普願不異也。(輪王寺本永平道元和尙語錄第二卷)

高祖承陽勃陀勃地は、佛法僧三寶・天衆・地衆・雲衆・水衆・燈籠・露柱の證明により、したしく今釋迦牟尼佛および佛弟子を、拂子頭上に禮拜し、密に八萬法藏の所説を聽取し參徹して、成道作佛し、わが日本の大恩教主釋迦牟尼勃陀勃地となられたのであります。南無大恩教主釋迦牟尼勃陀勃地、南無大恩教主釋迦牟尼勃陀勃地。

たとひ百千萬億劫のよるひる、つねに釋迦牟尼勃陀勃地と同座し、同釜の飯を喫したりとも、いまだ今釋迦牟尼佛および佛弟子を拂子頭上に禮拜し、八萬法藏の所説を聽取し參徹して、成道作佛せざれば、見釋迦牟尼勃陀勃地といふことはできません。たとひ禮佛開法の曆日は一刹那たりとも、學道は幽遠で

ありますから、釋迦牟尼勃陀勃地は高祖承陽勃陀勃地に回互せられ、高祖承陽勃陀勃地は、かへりて釋迦牟尼勃陀勃地に不回互して、空手に顛酒し、無佛法を弄毬し、見高祖承陽勃陀勃地せられ、成釋迦牟尼勃陀勃地せられたのであります。見高祖承陽勃陀勃地は三際を透脱し、成釋迦牟尼勃陀勃地は十方を教跳してゐますから、

「過去現在未來の諸佛、ともにほとけとなるときは、かならず釋迦牟尼佛となるなり。」(即心是佛の卷)

一切諸佛は、みなことごとく高祖承陽勃陀勃地に藏身して、大恩教主釋迦牟尼勃陀勃地に露影するから、釋迦牟尼勃陀勃地、高祖承陽勃陀勃地に結歸するのであります。他心道の卷の語例をかりますれば、高祖承陽勃陀勃地はこれ一代の古佛なり、一世界の如來なり。佛正法眼藏あきらめ正傳せり、木槌子眼たしかに保任せり。自佛に正傳し、他佛に正傳す。釋迦牟尼佛と同參したれりといへども、七佛と同時參究す。かたはら三世諸佛と同參したれり、空王のさきに成道せり、空王のちに成道せり、正當空王佛に同參成道せり。

高祖承陽勃陀勃地は、もとより娑婆世界を國土とせりといへども、娑婆かならずしも法界のうちにあらず、盡十方界のうちにあらず。釋迦牟尼勃陀勃地の娑婆國主なる、高祖承陽勃陀勃地の國土をうばはず、聖礙せず。たとへば前後の佛祖おのそのこぼくの成道あれども、あひうばはず、聖礙せざるがごとし。前後の佛祖の成道、ともに成道に聖礙せらるるがゆゑに、かくのごとし。

はたしてしからは、釋迦牟尼勃陀勃地、高祖承陽勃陀勃地、御在世のときは、まったく二教なく、まったく二師なく、大恩教主釋迦牟尼勃陀勃地、高祖承陽勃陀勃地、ただ無上菩提をもて、衆生を誘引するのみであります。

衛藤教授の「宗祖としての道元禪師」をあらはされたるゆゑも、その意けだしここに存するのではありますまいか。まことに古人未開口の創見であります。その創見、その敬虔、その嚴肅、その精密、その詳覈は、みる人かならずこれを知られたことでありませう。よりてわしは、みちを別峰にとりて、大恩教主釋迦牟尼勃陀勃地にてある高祖承陽勃陀勃地が、宗祖としての道元禪師であることを書して跋としました。

昭和十八年十二月八日

芳惟安

落丁・匱丁に對しては責任を負ひます

昭和十九年七月十日 印刷 凸版印刷株式會社印刷
昭和十九年七月二十日 第一刷發行 水井製本

宗祖としての道元禪師

◎ 定價三圓五十錢
特別行爲税 十錢
相當額 十錢
合計 三圓六十錢

著者 衛藤 即應

發行者 岩波 茂雄

印刷者 井上源之丞

出版會承認 420177 號 5000 部

發行所

配給元

東京都神田區一ツ橋二ノ三
岩波書店
東京神田區淡路町二ノ九
日本出版配給株式會社

衛藤即應氏略歴

大正元年京都帝國大學卒業 駒澤大學
講師ヲ經テ昭和九年以來同大學教授
校註「正法眼藏」上、中、下(岩波
文庫)

重要項正誤表

頁	行	校正の誤り	訂正
目次	一	春八月	春一字削除
本文	一四	漢籍	漢籍
二九一	一二	灌漑用水量	灌漑用水量
二九二	一三	三年に至る三ヶ年間	三年に至る平均一ヶ年間
二九二	一	五十三平方里七三	五十三平方里一七三
二九二	六	三十一億八千七百八十二萬云々	三百十六平方哩七
二九八	一〇	使用水量	最大使用水量
二九八	一〇	木橋路	石造橋
二九九	一一	石造橋	鐵扉石造開門
二九九	一二	「而して左端の三」	の七字削除
三〇二	一三	重複	全文削除
三〇三	一〇	練	線
三〇三	一一	米國ウエス	米國ウエス
三〇四	一五	公式中 $\int_{L_1}^{L_2} 0.116 \sqrt{2g} dl$	$\int_{L_1}^{L_2} 0.116 \sqrt{2g} dl$
三一三	一五	アルチメイト、ストレングス	エラスチック、リミット
三一四	一	(破壊強度)	(彈性限度應力)
三一四	一	エラスチック、リミット	アルチメイト、ストレングス
三一五	七	父のエラスチック、リミット	父のアルチメイト、ストレングス
三一六	一五	エラスチック、リミット	アルチメイト、ストレングス
三二二	一五	エラスチック、リミット	アルチメイト、ストレングス
三七八	一	「支柱ニ欲イナラバ」	の九字削除
六四四	七	直系圖中宗城氏の項に	「千代子」加ふ
六四五	一四	年六十二歳	年七十二歳
六四五	一四	對當位	對等位

終

賣價(税込) ¥3.60